

# 寄生蜂毒

： 宿主を巧みに操る物質の作用機序と進化

iSeminar

## 概要

地球上には多くの寄生生物が存在する。

その中でも、ハチ目昆虫である寄生蜂は、175万種とされる現生生物の種数の中でも20～30万種を占めるとも推計され、多様性において最も繁栄した生物群の一つである。寄生蜂の繁栄を支える基盤は、宿主の発生や免疫、さらには行動をも巧みに操作する毒である。

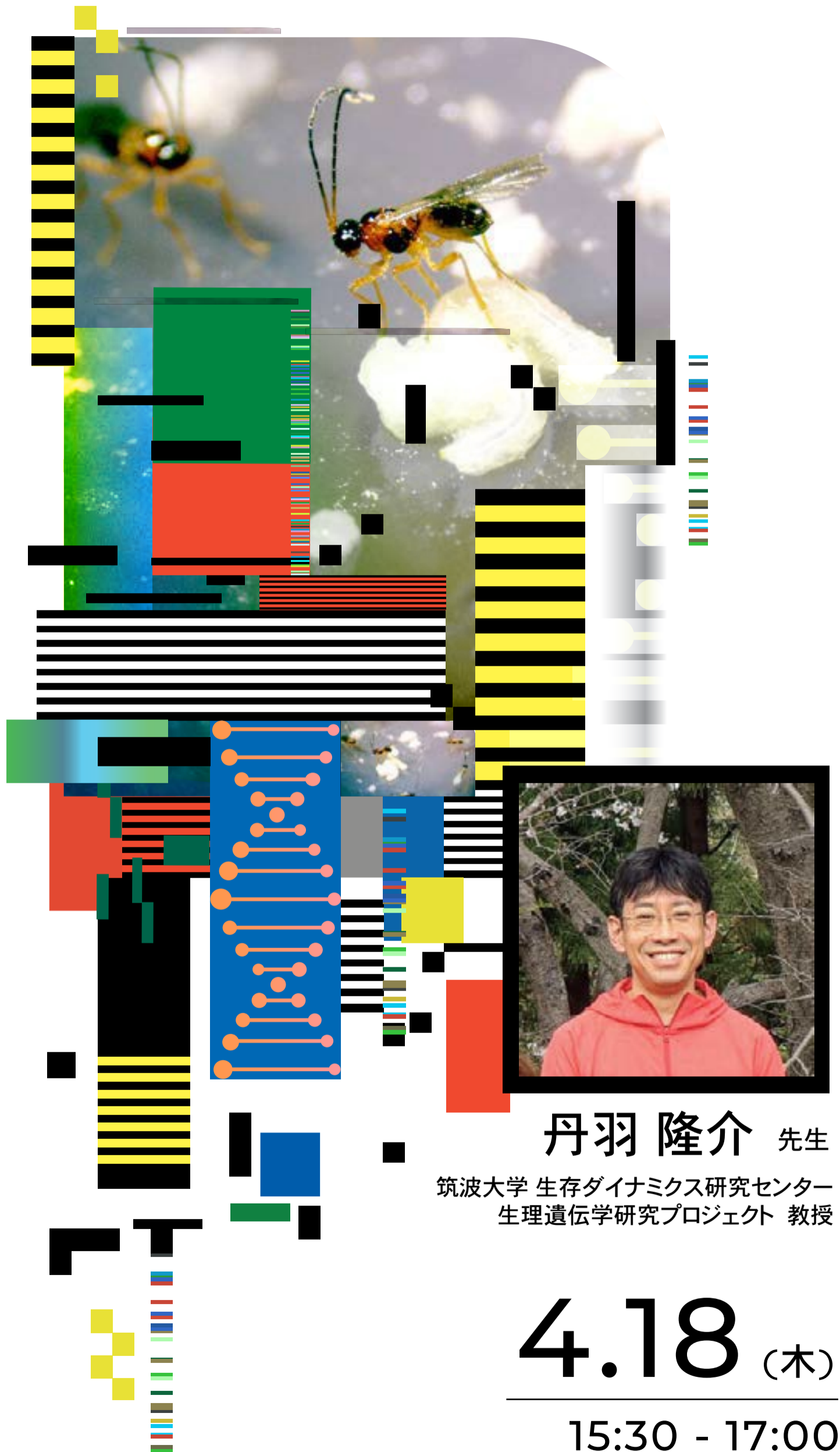
しかしながら、生活環の特殊性や試料サイズの小ささにより、寄生蜂の毒の作用の分子メカニズムの研究は未だ大きく立ち後れている。このような中で我々は、遺伝学に優れた *Drosophila* 属ショウジョウバエと、これを宿主とする *Asobara* 属寄生蜂を用いて、寄生に必要な毒成分の同定と機能解明を目指している。

本発表では、比較ゲノム解析、マルチオミクス解析、および分子遺伝学的手法を用いたアプローチから見てきた毒が支える寄生戦略の一端を紹介し、さらにこの知見の応用面への波及の可能性を議論したい。

## 参加登録



<https://x.gd/mcN8l>



丹羽 隆介 先生

筑波大学 生存ダイナミクス研究センター  
生理遺伝学研究プロジェクト 教授

4.18 (木)

15:30 - 17:00

Zoom | 名古屋大学 理学部南館 1階  
NEOREX PLACE セミナー室